

原子力に対する態度やそれに関する人々の知識の量がいかにニュースメディアの報道に影響されているかを意識調査を行った。

キーワード：意識調査、社会受容、ニュースメディア、知識量、NIMBY

**1.序** 従来、原子力に関して多数の世論調査が実施されてき、また社会心理学的側面から原子力技術の受容程度についてのアカデミックな調査もなされてきた。しかし、こうしたものの多くは人々の意識構造の現状を捉えることが目的であり、必ずしも原子力の受容性の改善を図ることを目指した調査ではなかった。本研究では PRs 活動の方向性を探ることを目的に社会調査を実施し、分析を行った。

**2.調査方法** 1998年10月、福井県嶺北地域(福井市、鯖江市)の1000人、嶺南地域(敦賀市、美浜町)の500人および近畿圏都市部1000人の、10歳毎に分割した年齢層の成人男女を二段階無作為抽出法で選出し、調査員訪問留置法で調査票を回収した。これとは別に同一質問票を原子力研究者に対しても郵送法で送付し、350人分の返送データを得た。原子力技術に対する生活者の意識のうち特に地域依存性の強いものの以外は居住地を属性とはせず、主として性と年齢を説明変数として全居住地での平均値を算出した。

**3.調査結果** 当調査は原子力技術を含む十種類の科学技術に対する意識や、ニュースメディアへの接触状況などを問う。これらの質問を通して、以下のような結果を得た。

(1)原子力への関心度：原子力に限らず、一般に科学技術に対する関心度は若年層であるほど低下する。若年層の無関心さは科学技術全般に及ぶ。メディア報道に対する注目度は、関心度と類似の傾向を持つ。

(2)原子力知識量と原子力認識：若年であるほど原子力に関する知識は乏しい。男女間での(主観的)知識度の差異は、同性内での老若間における差異よりも大きい。両性間での知識度分布を図1に示す。NIMBY感情は知識の欠如程度と強い相関を持ち、知識度の低下と共に増大する。しかし(研究者も含めて)十分な知識量を持つ人々についてもNIMBY感情は残存する。

(3)原子力報道に対する印象：人々の原子力に対する捉え方はネガティブ方向に強くバイアスされたものである。原子力に対して人々には先験的に培われた恐ろしさが存在するため、原子力報道のネガティブ表現に接した場合、他の科学技術のその種の表現に接するよりもより強い印象を受け、長い時間に渡ってネガティブな状況を記憶する。

その他、(4)態度の付和雷同性、(5)人々のニュースメディアへの対応などについても報告する。

本研究は核燃料サイクル開発機構の委託事業の一部である。

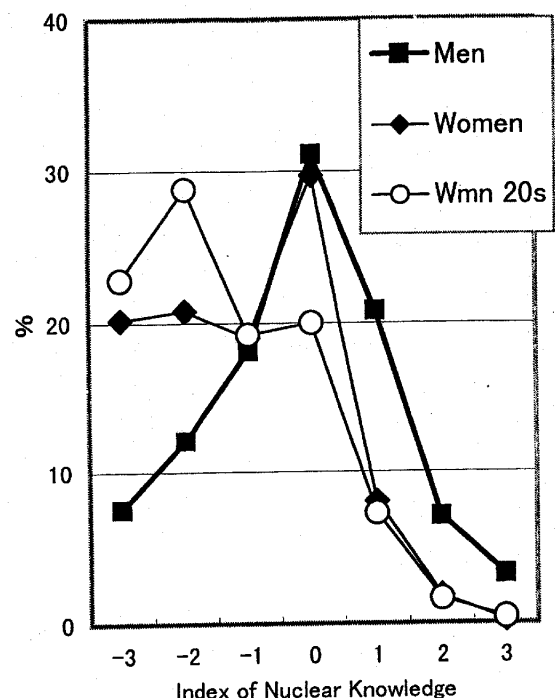


図1 原子力発電に関する知識度分布